第23回山形県地方港湾審議会

酒田港港湾計画(案)の概要

改 訂 -

平成18年 4月

酒田港港湾管理者 山 形 県

目 次

1			溎	ま湾計画の趣旨					
1	-	1	酒田港長期構想						
1	-	2	長期	構想と港湾計画の関係	2				
2			溎	き湾計画の改訂(案)					
2	-	1	港湾	利用のゾーン計画	3				
2	-	2	施設	計画(案)					
		施	策1	「物流機能の強化」	4				
		施	策 2	「外郭施設の拡充」	5				
		施	策3	「臨港交通体系の強化」	6				
		施	策4	「イベント船、旅客船への対応 」	7				
		施	策 5	「プレジャーボートスポットの確保」	8				
		施	策 5	- 1「小型船等だまりの確保」	9				
		施	策6	「親水空間の確保」1	0				
		施	策7	「防災機能の拡充」1	1				
	参	考	資料	上貨物量推計					
		参	- 1	取扱貨物量の現状1	2				
		参	- 2	将来取扱い貨物の推計(まとめ)1	3				

1.港湾計画の主旨

1-1.酒田港長期構想

酒田港の将来像

酒田港はその昔、奈良・平安の時代には対岸の渤海国と 交流し、江戸時代には北前船の西廻り航路の寄港地として、遠く上方、江戸との舟運によって栄えた港です。

30 年後の酒田港、その地理的条件と歴史の経験を活かし、日本海側のゲートウェイを目指します。

酒田港は、物流、環境、親水、防災と多岐に渡る役割を担っており、酒田港長期構想では、山形県のみなと酒田港から東北のみなと酒田港へ、さらに北東アジア地域の核となる港へ変貌するために必要な取組みを提案しています。

長期構想の根底にあるもの、それは北東アジア地域全体が豊かになる「国際公益の精神と行動」です。

「北東アジア地域への貢献」

国際公益拠点港

【国際公益拠点港とは】

港は経済活動を行うために必要不可欠な社会資本です。

酒田港長期構想では、単に物流機能の充実にとどまらず、 国民と北東アジア地域への安全な食の提供やリサイクルの推 進による地球環境の保全、さらに広域的な災害時支援ネット ワークの形成など、北東アジア地域全体の幸せを行動の基本 としています。

国際公益拠点港とは、具体的な港の機能や施設を指すのではなく、国際的な公益の精神をもって行動する港を「国際公益拠点港」と位置付けています。



30年後の北東アジア地域の姿

自由貿易地域の形成などにより、国境の垣根は低くなり、 グローバルな地域連携の取組みが進むことによって、域内で の物と人の交流が盛んになると考えます。

また、地球環境の悪化に歯止めを掛けるために、環境保全に対する広域的な取組みが進んでおり、さらに大規模災害などへの備えとして、広域的な災害時支援ネットワークが形成されていると考えます。

<物流機能>

●北東アジア地域の物流の拠点となる酒田港

- 目標 1 使いやすい物流拠点の形成
- 目標 2 北東アジア地域と東北地方を結ぶ日本海側の ゲートウェイの形成

目標 - 3 日本と北東アジア地域の食を守る

食糧備蓄拠点の形成



目標達成に向けた取組み

- 01.港湾施設の適切な整備と質の高い港湾サービスの提供
- 02.国際輸送ルートの拡充と交流の促進
- 03.食糧備蓄基地の実現

<リサイクル機能>

❷北東アジア地域の循環型社会に貢献する酒田港

- 目標 1 広域的リサイクルネットワーク拠点の形成
- |標-2||地域における循環型社会の形成
- 目標 3 多様な資源を活用した環境に優しい

エネルギー供給拠点の形成



目標達成に向けた取組み

- 01.循環資源総合拠点の実現
- 02.環境保全先進地域の実現
- 03.新エネルギー開発・供給基地の実現

<親水機能>

❸国際交流と、憩い、レジャー、学びの場となる酒田港

目標 - 1 賑わい空間の創造による

北東アジア地域との交流拡大

- 目標 2 水が育む新しい湊まち文化の創造
- 目標 3 誇れる酒田湊の歴史と文化の次世代への伝承
- 目標 4 豊かな自然との共生



目標達成に向けた取組み

- 01.「国際交流拠点」を活用した湊まちづくり
- 02.「親水空間」を活用した湊まちづくり
- 03.「歴史・文化」を活用した湊まちづくり
- 04.「美しい景観」を活かした湊まちづくり

<防災機能>

●北東アジア地域の防災拠点となる酒田港

- 目標 1 港の防災機能の形成
- 目標 2 関係機関と住民が連携した防災体制の形成
- 目標 3 広域的な災害時支援体制の形成



目標達成に向けた取組み

- 01.防災拠点を活用した災害に強い港の実現
- 02.地域連携による安全・安心な港の実現
- 03.広域的な災害時支援ネットワークの実現

1-2.長期構想と港湾計画の関係

2 1世紀の

北前船構想

~憩い・集い・賑わい~

みんなの酒田湊(みなと)

元気計画

港湾計画は、おおむね30年後の長期的な視点によって検討している「酒田港長期構想」のうち、物流機能の強化等、中期的な課題に対応するため、平成30年代前半を目標年次とし以下の方針で整理 するものとする。

酒田港長期構想 (30年後)

柱1:北東アジア地域の物流の拠点となる酒田港

目標1 使いやすい物流拠点の形成

港内の静穏度の向上を図るため、外郭施設の拡充 円滑な交通を確保するため、臨港道路の充実化 国際物流の拡大にあわせた内貿輸送体系の拡充

目標2 北東アジア地域と東北地方を結ぶ

日本海側のゲートウェイの形成

目標3 日本と北東アジア地域の食を守る食糧備蓄拠点の形成

大型穀物船の入港に対応した大型岸壁の整備

柱2:北東アジア地域の循環型社会に貢献する酒田港

目標1 広域的リサイクルネットワーク拠点の形成

循環資源を中心に取扱う岸壁の整備

目標2 地域における循環型社会の形成

目標3 多様な資源を活用した

環境に優しいエネルギー供給拠点の形成

柱3:国際交流と、憩い、レジャー、学びの場

<u>となる酒田港</u>

目標 1 賑わい空間の創造による北東アジア地域との交流拡大

目標 2 水が育む新しい湊まち文化の創造 プレジャーボートスポットの確保 適切な緑地の配置

目標3 誇れる酒田湊の歴史と文化の次世代への伝承

目標4 豊かな自然との共生

景観に配慮した空間づくり

柱4:北東アジア地域の防災拠点となる酒田港

目標1 港の防災機能の形成

耐震強化岸壁の整備

オープンスペースの確保

目標2 関係機関と住民が連携した防災体制の形成

目標3 広域的な災害時支援体制の形成

港湾施設の利用に関する現状の課題・要望 酒田港全体の利用を見据えたゾーン形成

静穏度向上のための防波堤の計画促進

大型船舶による輸送に対応した大水深岸壁と広いヤードの計画

緊急時の物流機能を維持するための耐震強化岸壁の計画

北港遊休地へのリサイクル企業の誘致促進

プレジャーボートの係留保管施設の拡充

親水空間(釣り場、緑地、ビオトープの設置など)の計画と水質改善

酒田港港湾計画 (平成 30 年代前半)

- 港湾背後企業の国際競争力向上の維持 の観点から、物流コストの削減に資す る港湾機能の拡充を図る。
- 「港内における航行等の安全性の確保」や、「効率的な岸壁荷役」のため、 港内静穏度の向上を図る。
- 港湾と背後地域及び港内の円滑な交通 を確保するため、臨港交通体系の充実 を図る。
- 多様な輸送手段や環境に配慮した物流 を担うため、内貿ユニットロードに対 応した物流機能の新たな構築を図る。

→ 物流機能空間

● 静脈物流拠点港に指定された酒田港が、 循環型社会構築の一翼を担うため、循環 資源取扱企業の集積と広域的なリサイ クルネットワークの形成に向け、港湾機 能の拡充を図る。

→ リサイクル機能空間

- 中心市街地と湊の交流・レクリェーションゾーンを連携させ、賑わいのある「みなとまち酒田」の再生を図る。
- 港内・河川に放置されているプレジャーボートを集約するため、既存施設を有効活用した海洋性レクリエリェーション機能の充実を図る。

→ 賑わい空間

- 大規模地震災害時の緊急物資輸送など に対応するため、効率的な耐震強化岸壁 の配置を図る。
- 津波による災害を防止するため、外郭施 設の拡充を図る。

→ 防災機能空間

施策1:物流機能の強化

- 大型岸壁の計画
- ・ 循環資源を中心に取扱う岸壁の計画
- 内貿ユニット貨物に対応した岸壁の計画
- ・係留機能の利用形態の見直し (物資補給岸壁や護岸への転換)

施策2: 外郭施設の拡充

・長周期波対策等として、外郭施設(防波堤)の計画による 静穏度確保

施策3 : 臨港交通体系の強化

・臨港道路の計画

(海上物流との連携)

(円滑な臨港交通、企業誘致への支援)

施策4 : イベント船、旅客船への対応

・埠頭利用計画の見直し(係留機能の利用形態の見直し)

施策5 : プレジャーボートスポットの確保

・小型船だまりの計画の見直し (プレジャーボートだまりと作業船だまりの再編成) (放置等禁止重点区域の設定による誘導策)

施策6 : 親水空間の確保

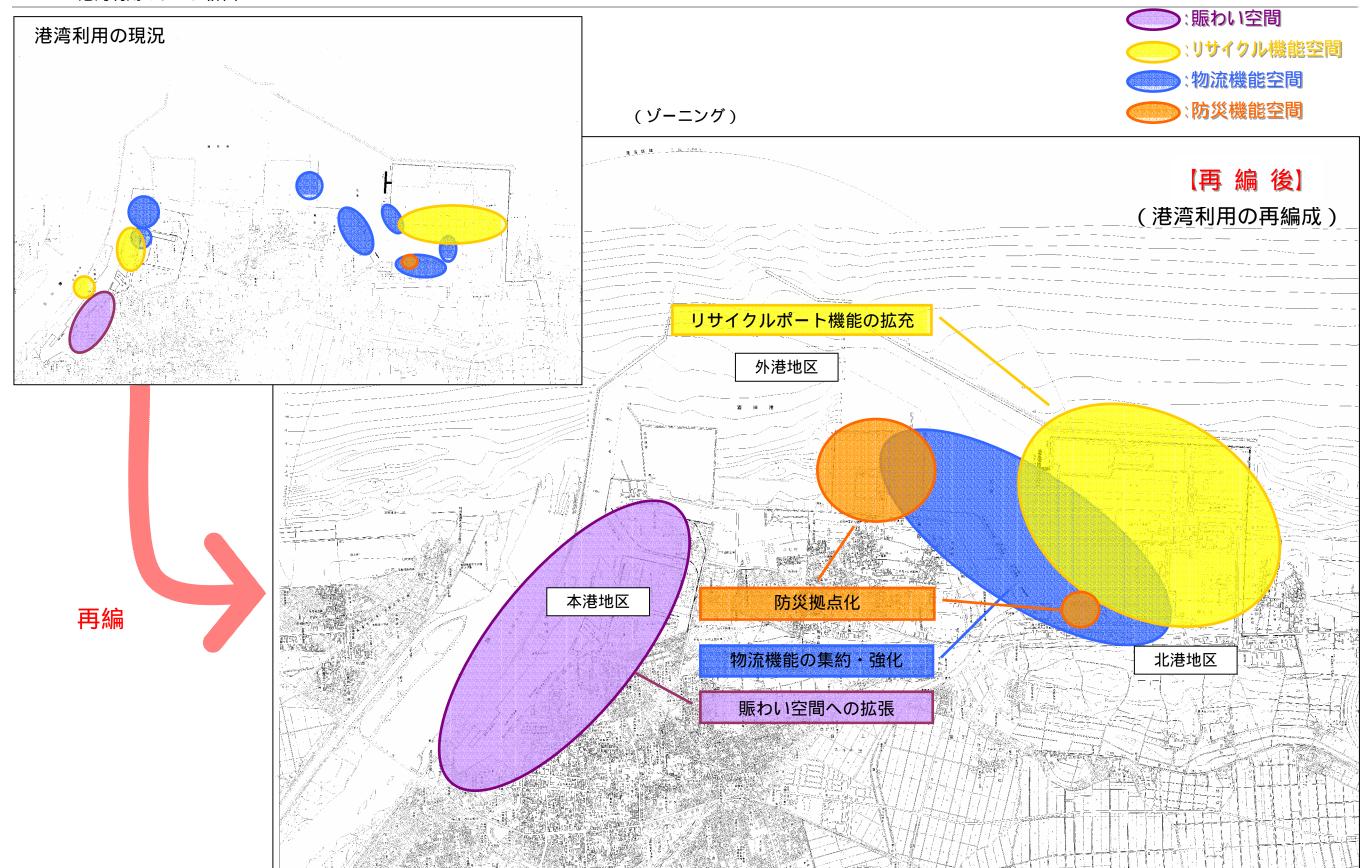
- みなとの賑わい、レクリェーション、防災等のための緑地 の配置
- ・景観形成ゾーンの設定

施策7 : 防災機能の拡充

・背後の利用と密接する耐震強化岸壁の計画 (地域防災計画への位置づけ)

2. 港湾計画の改訂(案)

2 - 1 . 港湾利用のゾーン計画



 $p.7 \sim 11$

2 - 2.施設計画(案)

施策1「物流機能の強化」

【長期構想の目標】

柱 1 北東アジア地域の物流の拠点となる酒田港 使いやすい物流拠点の形成 北東アジア地域と東北地方を結ぶ日本海側のゲートウェイの形成 日本と北東アジア地域の食を守る食糧備蓄拠点の形成

柱 2 北東アジア地域の循環型社会に貢献する酒田港 広域的リサイクルネットワーク拠点の形成

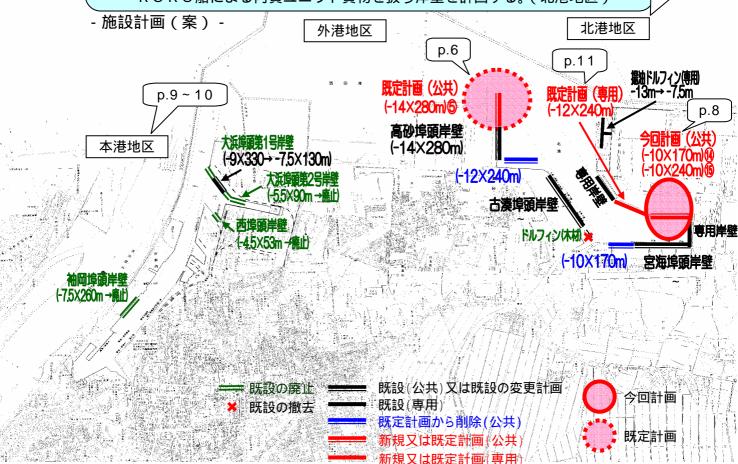
【港湾計画での対応】

計画の方針

- ・ 原塩、穀物等を仕出港からの大型船舶によるダイレクト輸送に対応する。
- ・ リサイクルポートの指定に伴うリサイクル関係企業の集積(北港地区遊休地の活用)とその海上輸送へ対応する。さらには、「庄内リサイクル産業情報センター(仮称)」の展開に向けた土台づくりに対応する。
- ・ 県背後圏で生産・消費されるユニット貨物を海上輸送で対応する。

施設計画(案)

- ・ 大水深岸壁を計画する。(外港地区)
- ・ リサイクル貨物を取扱う岸壁を計画する。(北港地区)
- ・ RORO船による内貿ユニット貨物を扱う岸壁を計画する。(北港地区)



施策2 「外郭施設の拡充」

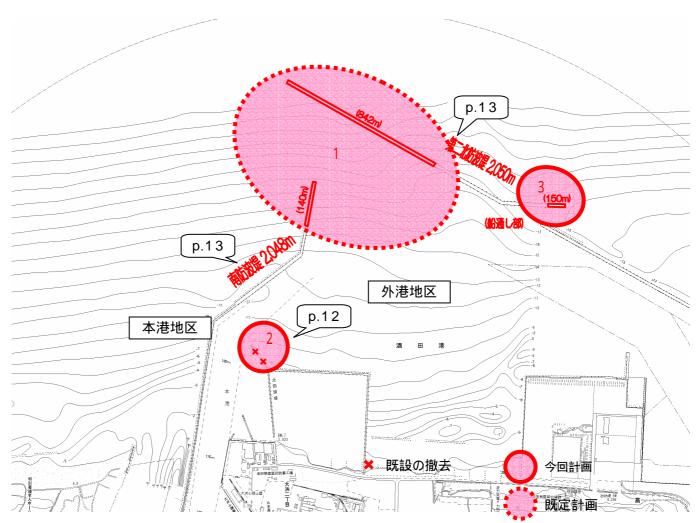
【長期構想の目標】

- 柱1 北東アジア地域の物流の拠点となる酒田港 使いやすい物流拠点の形成
- 柱4 北東アジア地域の防災拠点となる酒田港港の防災機能の形成

【港湾計画での対応】

計画の方針

- ・ 長周期波対策等として港内静穏度の確保と、うねりによる航行障害への対策により、いつでも安全で安心な港湾を目指す。施設計画(案)
- ・ 外郭施設(防波堤)を計画する。(本港地区・外港地区)



施策3 「臨港交通体系の強化」

【長期構想の目標】

- 柱1 北東アジア地域の物流の拠点となる酒田港 使いやすい物流拠点の形成
- 柱 2 北東アジア地域の循環型社会に貢献する酒田港 広域的リサイクルネットワーク拠点の形成

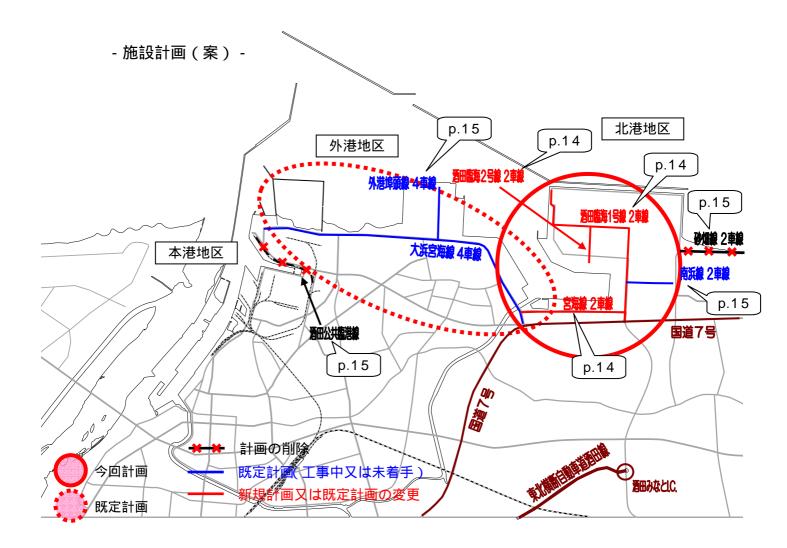
【港湾計画での対応】

計画の方針

- ・ 物流機能の向上のため、海上、陸上輸送の連携や円滑化に対応する。
- ・ リサイクルポートの指定に伴うリサイクル関係企業の集積(北港遊休地の活用)を支援するとともに、さらには、「庄内リサイクル産業センター(仮称)」の展開に向けた土台づくりに対応する。

施設計画(案)

・ 臨港道路を計画する。(外港地区、北港地区)



施策4「イベント船、旅客船への対応」

【長期構想の目標】

柱3 国際交流と、憩い、レジャー、学びの場となる酒田港 賑わい空間の創造による北東アジア地域との交流拡大

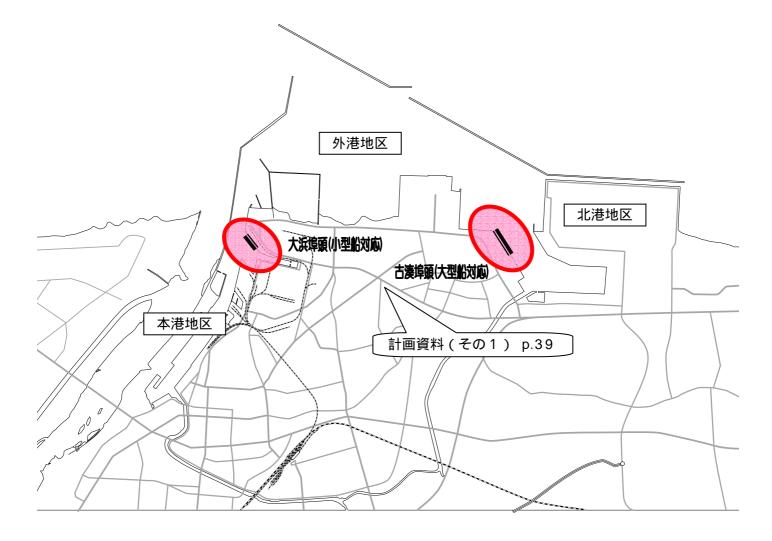
【港湾計画での対応】

計画の方針

- ・ 物流機能の集約、賑わい空間の創出に伴い、係留施設の利用形態の再編に 合わせた埠頭利用を展開する。
- ・ 北東アジア地域を含めた広域交流に向けた賑わい空間の創出のため、イベント船、旅客船の受入れに対応する。

施設計画(案)

- 物流機能だけでなく、旅客船等の受入れを考慮した埠頭利用を計画する。 (本港地区、北港地区)
- 施設計画(案)-



施策5「プレジャーボートスポットの確保」

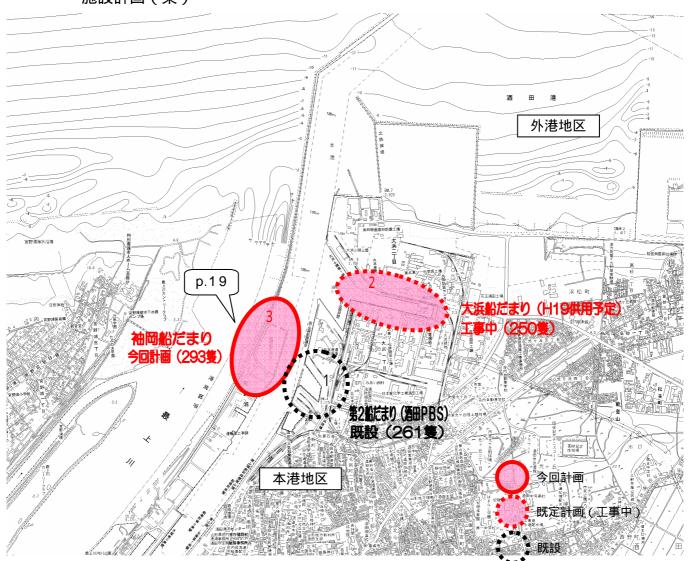
【長期構想の目標】

国際交流と、憩い、レジャー、学びの場となる酒田港 水が育む新しい湊まち文化の創造

【港湾計画での対応】

計画の方針

- 依然として残る放置艇問題に対応するため、既存施設を有効活用しプレジャ ーボートを収容するとともに、賑わい・親水空間としての充実を目指す。
- ・ 放置艇の収容施設への誘導策を考慮する。(放置等禁止区域の設定)
- 施設計画(案)
 ・ 既存の港湾施設の有効利用したプレジャーボートだまりを計画する。 (本港地区)



施策5-1「小型船だまり等の確保」(官公庁船等、作業船、漁船)

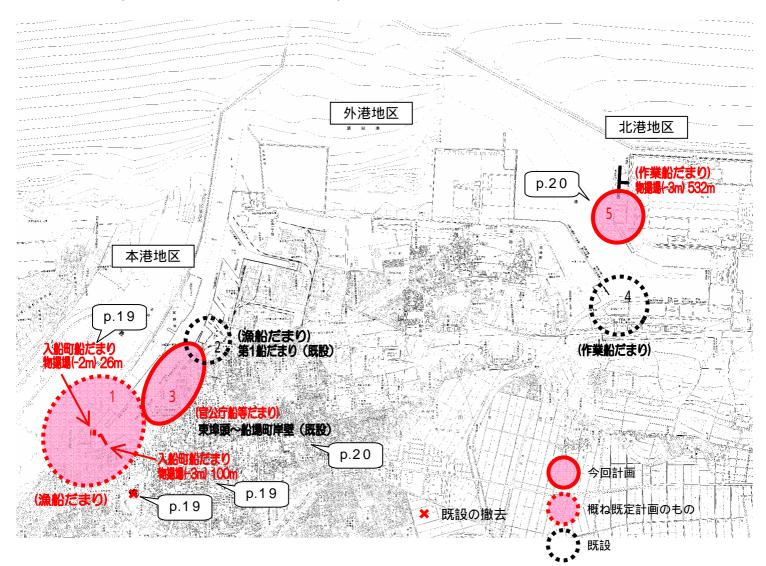
【長期構想の目標】

柱3 国際交流と、憩い、レジャー、学びの場となる酒田港水が育む新しい湊まち文化の創造

【港湾計画での対応】

計画の方針

- ・ 小型船だまり(係留施設)の利用形態を再編成する。 施設計画(案)
- 官公庁船、曳船、工事用作業船、漁船など小型船等を計画的に配置する。 (本港地区、北港地区)
- ・施設計画(案) -(プレジャーボートだまりを除く)



施策6「親水空間の確保」

【長期構想の目標】

柱3 国際交流と、憩い、レジャー、学びの場となる酒田港 水が育む新しい湊まち文化の創造 豊かな自然との共生

柱4 北東アジア地域の防災拠点となる酒田港港の防災機能の形成

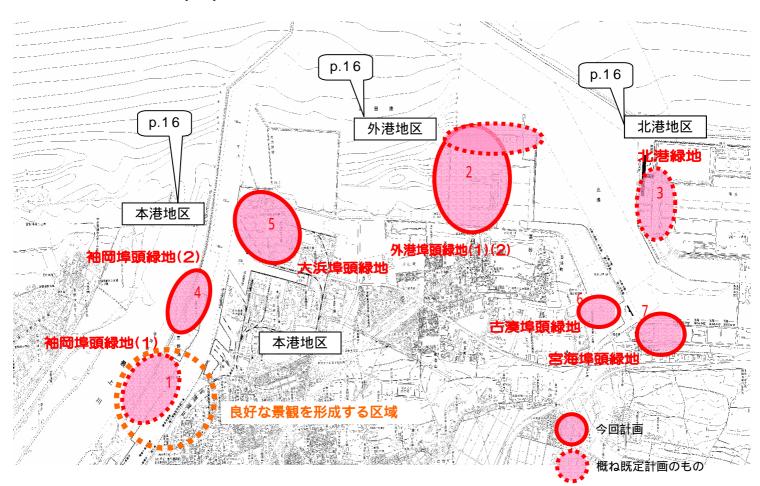
【港湾計画での対応】

計画の方針

- ・ 酒田港周辺中心市街地等とみなとの交流・レクリエーションゾーンを連携させ、賑わい空間の創造・充実を目指す。
- ・ 釣り場機能も付加した親水空間づくりを目指す。
- ・ 賑わいだけでなく、景観、視点場、防災面等も考慮した親水空間づくりを展開する。

施設計画(案)

・ 既存の港湾施設、港湾利用の計画を考慮した適切な緑地の配置を計画する。 (本港地区、外港地区、北港地区)



施策7 「防災機能の拡充」

【長期構想の目標】

柱 4 北東アジア地域の防災拠点となる酒田港 港の防災機能の形成

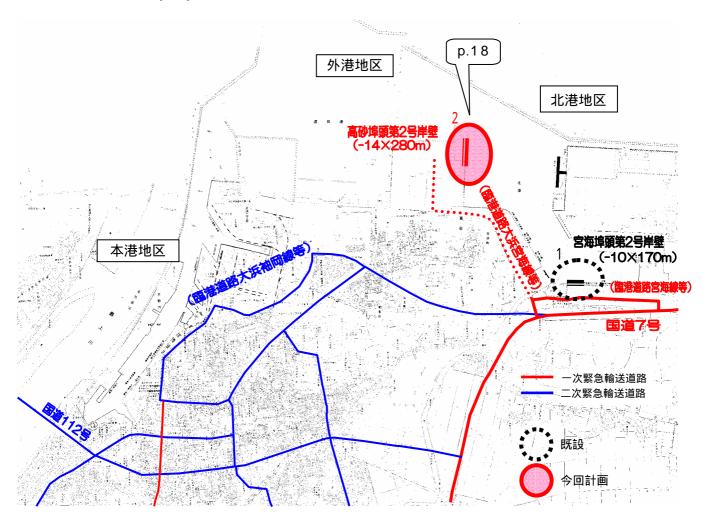
【今回計画での対応】

計画の方針

- ・ 港湾の優位性を生かして、山形県で想定している大規模地震発生時の緊急物 資輸送や救援活動受入れなど、防災機能の形成に対応する。 (地域防災計画との連携)
- ・ 復興時の経済活動を支援する機能に対応する。

施設計画(案)

・ 背後にオープンスペースを確保した耐震強化岸壁を計画する。 (外港地区、北港地区)



参考資料 貨物量推計

参-1.取扱貨物量の現状

酒田港の取扱貨物量は、3,733千トン(平成16年実績)

- ・ 酒田港の取扱貨物量は、近年では350~400万トン弱で推移し、横這い傾向にある。平成15年には原発停止に伴う電力需要のため石炭輸入が増加したことにより、過去最大の取扱貨物量(4,095千トン)を記録したが、平成16年は例年程度の取扱実績となっている。
- ・ 既定計画(平成5年)での将来貨物量は約910万トンとしていたが、社会情勢の変化等により取扱貨物の大きな伸びは見られていない。

酒田港の太宗貨物

・ 取扱貨物は、石炭、石油製品等のエネルギー貨物が最も多く、石材等、原木、 セメントが太宗貨物となる。

(平成 16 年) 石炭1,430 千トン H15 (1,724 千トン)

石油製品 653 千トン

石材705 千トン (過去最高)

セメント 194 千トン H 9 (406 千トン) がピーク

酒田港の外貿コンテナ貨物

- ・ 平成7年(航路開設5月)から順調に貨物量は増加しており、近年でも緩やかな 増加傾向にある。
- ・ 平成16年における輸出入別の割合では、輸出30%、輸入70%と輸入超過の 状況。
- ・ リサイクル関連貨物の取扱量が伸びている。

H 7(0 千トン) H13(1 千トン) H16(13 千トン)

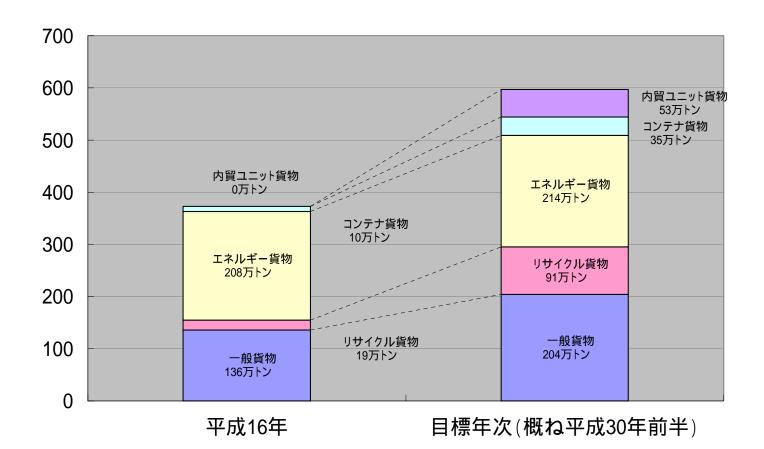
参考 H17(18 千トン)【平成 1 7年データは速報値】

参-2.将来取扱い貨物の推計(まとめ)

企業ヒアリング、需要予測(基準年次:平成16年)を主として将来の酒田港での取扱貨物量を算定し、港湾計画の目標年次(概ね平成30年代前半)での推計値とする。

既定計画(平成5年):約910万トン(目標年次は平成15年)

		港湾計画(平成30年前半)		長期構想(概ね30年後)	
主な品目	平成 1 6 年 実績	ヒアリング、需要予測の考え方	目標年次 (推計値)	主な内容	主な利用施設
一般貨物	136 万トン	・ 農産品、林産品、鉱産品等の増加 ・ 中古自動車等の新規取扱い	204 万トン	海外から直接輸入国産木材の輸出庄内リサイクル産業センター稼動リサイクルポートの進展(新たなリサイクル貨物の取扱いなど)食糧備蓄基地の整備	高砂ふ頭 古湊ふ頭 宮海ふ頭
リサイクル貨物	19 万トン	・鉄くず等、再利用資源の増加	91 万トン	· リサイクルポートの進展 · 庄内リサイクル産業センター稼動	高砂ふ頭 宮海ふ頭
エネルギー貨物	208 万トン	: 実績程度	214 万トン	-	-
コンテナ貨物	10 万トン	· 背後圏のコンテナ貨物の取込み · リサイクル貨物、農産品	35 万トン	· リサイクルポートの進展 · 県産品の輸出	高砂ふ頭
内貿ユニット貨物	0万トン	· 背後圏のユニット貨物に適合する貨物の 取込み	53 万トン	· 背後圏のユニットロード貨物に適合する 貨物の取り扱い	宮海ふ頭
合 計	373 万トン		597 万トン		



13